

多くの人々にとって、中学校生活と部活動は結びつきが深いものと思います。保護者のみなさまや私たち教職員の中にも、中学校時代の部活動を通じて得たものの大きさを感じる人たちが多いのではないのでしょうか。

実際に、現在の大住中学校においても、部活動は、多くの生徒の中学校生活において大きな意義をもたらしています。

部活動は、もともとは校内でスポーツや文化・芸術など、同じ興味・関心を持つ生徒同士が、自主的・自発的に活動する取組としてスタートしました。そして、それぞれの学校が部活動を通して切磋琢磨し合えるように、大会やコンクール等が設けられました。それに向けて生徒たちは、団結・協力し、その過程で、自身の心身を鍛え、礼儀を学び、人間としてたくましく成長する機会を得てきました。部活動は、生徒個人の成長と学校全体の活性化に、この上ない恩恵をもたらし、学校生活を豊かにしてくれる、学校にとっては不可欠な存在です。

本校の教職員は、以上のような部活動の意義をしっかりと認識し、部活動の適正な指導に取り組んでいます。

しかし、近年、部活動の過剰に疑念を呈する声が高まってきたことは、マスコミ報道等でご承知の方も多いかと思います。

そうした中、文部科学省外局スポーツ庁が、今年7月に全国の公立中学校部活動に関する調査を実施し、先日、その結果が公表されました。それによると、次のような課題が浮き彫りとなってきました。

① 活動日

- ・平日は休みなしの5日が52%、4日が41%。活動時間は2～3時間が46%、1～2時間が26%。土曜日は原則毎週が69%、日曜日は原則毎週が32%。

② 生徒

- ・「時間・日数が長い」（20%）、「体がだるい」（16%）「眠くて授業に集中できない」（12%）など。

※今年度の全国学力・学習状況調査では「平日の部活動が3時間以上」の中学生は「全くしない」生徒とともに正答率が低くなる傾向があった。

③ 顧問教員

- ・「校務が忙しくて、思うように指導できない」（55%）、「自身の心身の疲労、休息不足」（52%）「校務と部活動の両立に限界を感じる」（48%）など。ちなみに、「悩みはない」は4%。

※2016年度の教員勤務実態調査によると、中学校教員が土日に部活動の指導にあたる時間は10年前の1時間6分から2時間10分に倍増。6割の教員の時間外労働が「過労死ライン」の月80時間を超えている。

こうした状況の下、文部科学省は部活動が過剰になりすぎていることについて適度な休養日を設けるよう通知、京都府教育委員会も今年9月に、府立の中学・高校に休養日を設定するよう通知しています。

本日、京田辺市教育委員会と市内各小中学校連名で、『児童生徒のゆとりある学校生活と部活動の適切な実施に向けて』という文書が出されました。

内容としては、生徒の健康面への配慮、他の学校生活や家庭生活とのバランス、教職員の働き方改革と関連して、水曜日を『NO部活DAY』とすることと、休日に、適度な休養日を設けることを趣旨としています。本校だけでなく京田辺市全体で方向付けを行っています。

今後、課題としましては、生徒については、水曜日や休養日の過ごし方等が出てくるかと思います。適度な休養や気分転換がスポーツ等の競技力を伸ばすのに有効であるという知見が様々な研究を通じて認識されつつあることから、まず休養が大切です。同時に学習や多様な体験を通して自分の興味・関心を伸ばし、新たな自分の発見につながればすばらしいと思います。ご家庭でも、そうした有意義な時間の過ごし方をご指導いただければと思っています。

私たち教職員も、限られた時間を有効に活用し、部活動がより充実したものになりますよう、研鑽してまいります。また、水曜日や休養日でできた時間を、授業も含めて大住中学校をさらによりよくしていくための充電準備に充て、生徒の学力や成長へ還元させていく所存です。

なにとぞ、ご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。